

令和7年度（2025年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新任教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語4技能の修得と国際理解を深める指導の工夫。
- 2、ICT教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT機材を用いた授業研究の推進
 - (2) ALを取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）で10項目のアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

担任の指導の中で「建学の精神」や「スクールモットー」について考える機会が多いという項目の評価が低かった。一方で生徒を対象とした「建学の精神」を理解しているかというアンケートに対して「している」と答えた生徒が過半数であった。「朝の礼拝が整然と行われるようにしている。」という項目は中学・高校ともにポイントが高かった。生徒が司会をする形式で行われる礼拝を、生徒たちは「主体的に行っている」ものと位置付けているように思われる。

中学、高校共にクラス担任は相談しやすく、適切なアドバイスをしてくれるという点が昨年に引き続きマイナスとなった。改善に向けて学校全体で取り組んでいきたい。研修を行う、あるいは評価の高い教員の取り組み方を聞く場を設けるなどして、勉強する場を設けたい。礼拝の指導やクラス運営への満足度は高かった。これは教員の日頃の努力の結果だと思う。また小テストや課題提出は適宜行われ、正しく評価されているという項目のポイントが高いことから、生徒ひとり一人をよく見て、きめの細かい指導ができていることが分かる。今後はさらにきめの細かい指導を継続していきたい。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

学校運営 15 項目・教育内容 16 項目・生徒指導支援 6 項目・教員研修資質向上 5 項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の 4 段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、A を 4 点、B を 3 点、C を 2 点、D を 1 点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～D の頻度を回答合計数に対する割合（％）で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

昨年度より 3.0 以上評価の上がった項目あるいは同様の項目は、教育課程の「教育計画について」、財務関係の「財務に関する意識」「財政状況の把握について」、情報公開の「ホームページの活用状況」「授業公開状況」、危機管理の「役割分担について」、教育内容の人権教育「研究体制」、環境教育の「実践的態度の育成」、健康・食育の「健康・職に関する指導について」、「読書推進」、「学校行事」、生徒指導の「指導方針の一貫性」「生活指導について」「家庭との連携状況」であった。生徒支援の「進路指導について」も向上している。教員の中に保護者と連携を取りながら生徒 1 人 1 人についてしっかりと指導できているという認識があることが感じられる、喜ばしい結果となった。今年度は研修に力を入れており、その点も結果に繋がったように感じられる。研修によって意識と意欲を高め、今後も適切な生徒指導に努めていきたい。逆に評価の低い項目（2.0 未満）は教職員連携の「会議の有効性」、教員研修の「教員の資質向上」、教職員連携の「教員・教科間連携状況」が挙げられる。教員同士の連携が脆弱であるという意識を持っていることは学校力の低下に繋がる。学年の結束、コースごとの連体などを見直し、改善を心がけていきたい。教員の資質は生徒に影響する。教員間で授業見学、意見交換を行う機会を増やし、資質の向上に努めていきたい。また、昨年度より導入した i p a d について、十分に活用できているとは言い難い。I C T 機器の授業での有効な活用方法を習得し、教育活動に反映させていきたい。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 2026 年 10 月 1 日実施

（委員）校長・副校長・教頭・PTA 会長・近隣地区自治会長・近隣地区社会福祉協議会役員
梅花学園法人総務部長

【令和 6・7 年度実施の教員自己評価について】

- ・1 年目の教員の指導など、教員育成に力を注いでいくシステム作りを作るべきではないか。12 月に「こども性暴力防止法」が施行されるが、子どもたちが性犯罪や SNS を使った犯罪に巻き込まれないよう、教員が犯罪防止に対する意識を持ち、子どもたちを守る体制を作って欲しい。
- ・様々な生徒が楽しく通学できるようにフォローされている点が喜ばしい。
- ・土曜日講座にさまざまな工夫がなされており、講座を通して生徒が個性と可能性を伸ばせると思われる。地域や同窓生が協力することで、よりよい取り組みに出来ないか検討していきたい。
- ・併設大学や地域、同窓生との連携を図ることで生徒ひとり 1 人に寄り添い、より良い学校が作れないか検討していきたい。

【令和 6・7 年度実施の生徒評価について】

- ・今年度より学期聖句のしおりを作成し、生徒が聖句を身近に捉えられるようにした。また聖書・讃美歌バックを作った。こうした工夫がキリスト教主義への理解に繋がって欲しいと考えている。
- ・自転車の法律が大きく変わっている。生徒対象に自転車の法令遵守の研修をし、交通ルールを守り安全に過ごす意識を持ってもらってはどうか。またダイバーシティや SDG s の講演などをとおして社会や自己への意識を高めることが出来るのではないかな。

【総評】

- ・豊中移転 100 周年という節目の年に学校の歴史を振り返った。伝統ある学校に勤務しているという意識を持つことで教員は教育活動に一層の情熱を持ってほしい。また生徒たちには伝統校に通う誇りを持ち、支えてくださっている地域の方に感謝の気持ちを持って欲しい。2028 年に創立 150 周年を迎える梅花中学校高等学校が今後どのような変化をしていくのか楽しみにしている。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参観を推進する。 (2)新人教員育成制度の導入を検討・実施 (3) 英語 4 技能の修得と国際理解を深める	(1)授業参観期間を設定し、レポートの提出を義務化することで授業改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を配置し、授業・生徒指導等でレポートを作成し育成をはかる。新人教員を対象とした教員研修を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機会（外部講師での英会話・英検対策講座）の継続。また、イングリッシュホリスパースの利用促進やイングリッシュシャワーの継続。 外部ネイティブスピーカーと会話出来る機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価）教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の値)を 75%以上にする。 (2)自己評価・教員研修「初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。」の評価は横ばいである改善には至っていない。肯定的評価 70%以上をめざす。 (3) English Communication Day をレベルアップコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の機会を増やした。英検 2 級以上取得者を English Elite Member に認定しネイティブの特別レッスンの受講を促す。中学・ハワイ、高校・中欧の海外修学旅行、国際専攻の海外留学を実施した。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。	(1) 48.7% 授業参観の回数を増やすことで充実を図る。 (2) 26.6% 5 日制導入に伴い土曜日に教員研修や外部研修会への参加を促すことで改善を進めたい。 (3) 75% 海外研修の再開やイングリッシュホリスパースの活用法の工夫など、英語に触れる機会を増やす取り組みを継続して実施する。
2. ICT 教育の推 進	(1)ICT 機材を用いた授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に情報収集・校外研修に参加する ・Wi-Fi 環境が整い iPad,chrome book を活用する授業展開や課題設定を工夫する。 ・校内のメインサーバーを増強し ICT 環境のさらなる充実を図る。 (2)ICT 機材を活用しグループワークやプレゼンテーションを実施し「主体的・対話的で深い学び」を実施する。	(1)2020 年度 Wi-Fi を整備、中学全生徒に iPad を、高校は 2022 年から chromebook を導入し、スタディーサブリを導入した。 ・2022 年度より専任・常勤教諭にノートパソコン、2025 年度より iPad を貸与。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)目標は達成できなかったが評価は上昇している。「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニングの視点に立つ学び)に向けた教育を行っている」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1) 76.1% 授業での効果的な活用をめざし重点項目として継続する。 (2)55.2% 授業での効果的な活用をめざし重点項目として継続する。
3. 危機管理の徹 底	(1)火災・防災訓練の強化 (2)不審者への対応マニュアルの改訂 (3)災害への対応マニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施する。 (2)校務分掌の変更など整理し、現行の対応マニュアルの見直しを実施する。 マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共有化し対応できるよう研修・訓練	(1)2025 年度、3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2025 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分取られている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (3)2019 より年 1 回のアフィリキシー対応のためエビペン使用講習およびてんかんの教員研修を継続して実施する。救急救命講習を体育系ク	(1)82.3% 防災対策に継続して取り組む (2)(3)85.1% 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管理マニュアルとし、訓練や見直しを継続的に実施することで生徒教職員の安全確保を万全にしていく。

		等を実施	ブ員、教員対象に実施した。2024 年度前半校外活動中の救急対応についてマニュアルを作成した。評価指標は上記(2)と同様	
4. カウ ンセ リン グ強化	(1)カウンセラーとの連携強化 (2)不登校生徒への対応強化	(1)カウンセラーと教員との懇談を定期的に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。	(1)学期ごとに、支援が必要な生徒について教員間での情報の共有を図る機会を増やした。今後は教員間で共有のため頻度を上げる。自己評価・生徒支援「カウンセリング・マインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が出来ている。」の肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置している。教室への登校を目標に保護者、カウンセラーとも連携し対応を強化する。 評価指標は 上記(1)と同様とする。	(1)(2) 87.3% 目標を達成できた。今後も特別支援委員会を継続して取り組む。 様々な原因による不登校ぎみの生徒が増加傾向にある。ため、対応強化に継続して取り組む。
5. 財務状 況の共 有化	(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善	(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・ICT 利用を促進し紙の使用量を減らす。	(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛け、たびたび機会を設けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間の徹底を図る。また、職員室の 19 時自動消灯を継続する。 感染症防止のため換気を重視したためエアコンの使用が増えた。 電子データの配信により会議のペーパーレス化を目指す。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1) 45.2% 継続して取り組む。 (2)47.3% (1)(2)とも昨年より高い評価であった。